

## 第1回日本身体障害者自転車競技大会開催される

高橋 義信

晴天に恵まれた青空のもとで「第1回日本身体障害者自転車競技大会」が平成5年12月5日に立川市の国立昭和記念公園で開催された。(写真1)

大会準備期間が短く、十分な情報も流れない状況であったが、東京都、千葉県、埼玉県を中心に41名の選手が参加した。競技種目としては視覚障害者と健常者の組み合わせによるタンDEM競技が男子20km、混合15kmで公園の外周コースで競われた。(写真2)切断等の肢体不自由者は2輪自転車を用いての10km男・女が行われた。(写真3)

また、脳性マヒ者による三輪自転車は1,500m、2輪自転車3,000mのタイムトライアルが行われた。(写真4、

5) 以上のように大別して障害別に3クラスに分けられるが、同障害の中でさらに種目毎にレベル分けがなされ

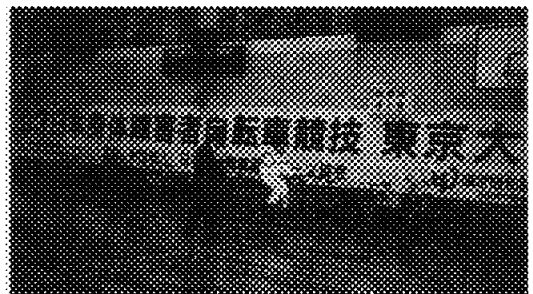


写真1 大会前日の自転車合わせ

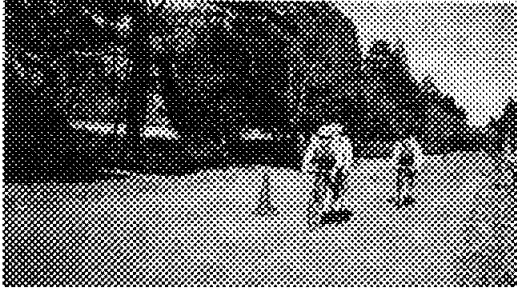


写真2 視覚障害者のタンデムレース

て、今回は全部で15クラスでの各順位が決められた。

観戦者は少なかったものの公園に遊びに来ている家族づれ等の声援の中で懸命に走っている姿は感動的であった。特に、初めて三輪車に乗る脳性マヒの選手や、片足でペダルを踏んでいる姿を見ての関係者の思いもひとしおであったことと思われる。

思えば、1992年のバルセロナパラリンピック役員団の中で「自転車競技に日本選手が一人も参加していないのは残念である。何とか次のアトランタパラリンピックには出場させたいものだ」との話の中から、早速計画がたてられた。日本身体障害者スポーツ協会を中心に関係者が集まり委員会がもたれ実施のための検討が行われた。ルール翻訳から始まり、自転車の開発、選手集め、会場確保等初めて行うことであり、多くの課題が山積みされていた。アトランタへ向けて第1歩を踏み出そうという関係者の熱意で、11月3日東京でのジャパンパラリンピック陸上競技大会開会式でトラックを自転車で走るデモンストレーションが行われた。そして、今回の第1回大会につながった訳である。場所確保の点から単独開催は困難であり、第7回東京車いすマラソン大会の前に自転車競技が行われたものである。大会関係者が最も心配していた事故もなく無事予定通り修了できたことは、今後の大会に継続する第一ステップとなった。第2回は1994年3月20日に関西サイクルスポーツセンターで開催すべく準備が進められており、サイクルレースに参加す



写真3 肢体不自由者の二輪車レース

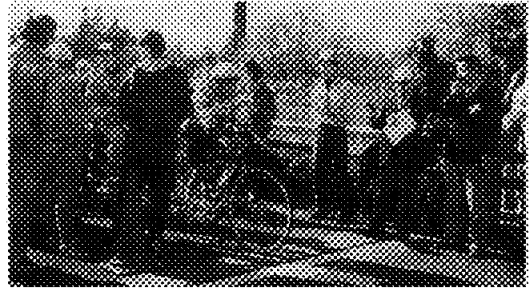


写真4 脳性マヒ者の三輪自転車レース

る障害者が増えてくることを期待したい。また、競技のみでなく、日頃、障害者も楽しみながら自転車を乗りまわす日が来ることを願っている。レース後の選手の本当に「自転車は楽しかった、また続けてやりたい」という言葉と表彰台に立ってメダルをもらった時の笑顔は私の脳裏に焼きついて離れない。

今後自転車競技を普及させていくためには、指導員の養成、選手の確保と育成、機器の開発改良、競技場所の確保、ボランティアの育成、広報普及等へ向けての継続した努力が必要であろう。

技術研究所としてもハードの開発等において可能な限り協力し、推進していくことは、我々に課せられた任務のひとつと思われる。

(筆者は、品質構造研究部主任研究員)

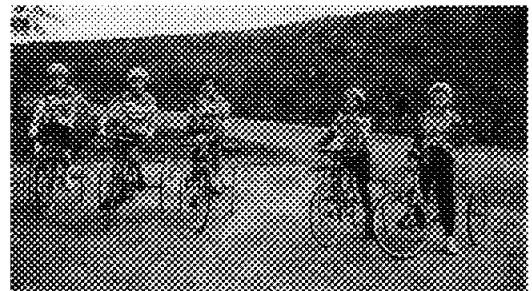


写真5 三輪自転車の参加選手達



写真6 表彰式